



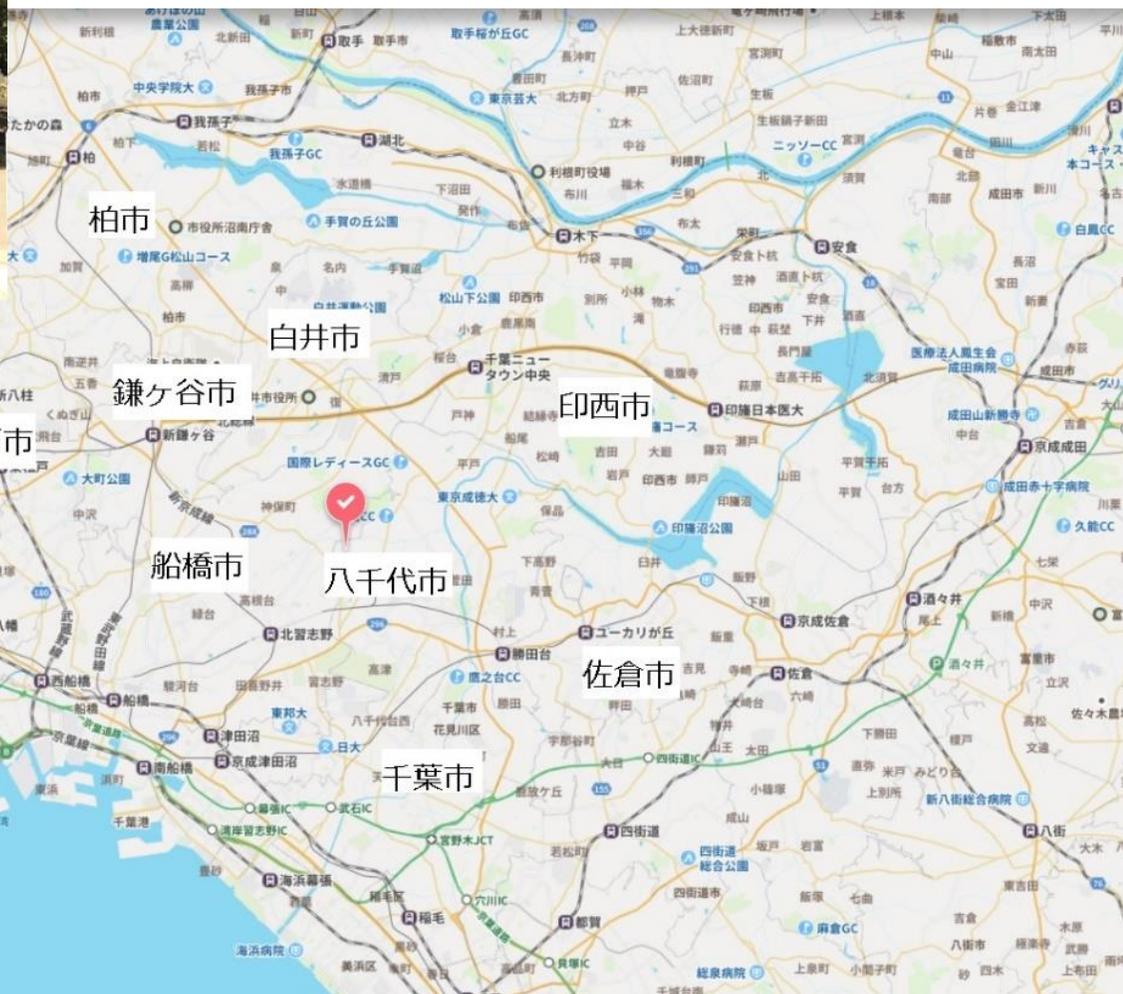
八千代の万治の 三猿三面彫庚申塔と 同型塔の広がり

日本石仏協会 石仏談話室
2022.5.7 蕨 由美

八千代市吉橋の高本八幡社のあるところ-1



高本八幡社は、八千代市吉橋の最西端にあり桑納川を隔てて、船橋市に接しています。



八千代市吉橋の高本八幡社のあるところ-2

UR都市機構による「八千代緑が丘はぐみの杜」の造成地に接し、周りの環境は一変しています。



左:当初事業認可時の西八千代北部地区(平成14年1月) 右:現在の西八千代北部地区(平成29年10月)

八千代市吉橋の高本八幡社

境内入口の鳥居の右横に庚申塔8基が並んでいます



高本の万治三年銘笠付角柱庚申塔



吉橋の高本八幡社入口の、万治3年（1660）銘の笠付角柱型の庚申塔は、八千代市内最古の庚申塔で、総高140cm、笠と塔身は一石で彫りだされ、水鉢付の台座に載っています。

三面に彫られた各猿
（左：不聞・正面：不見・
右：不言）の像容は、写実
的で丸彫に近く、笠・塔
身・台座のバランスもよく、
三猿主体の庚申塔としてた
いへん優れた石塔です。



正面上部		正面写真	
<p>(梵字) 為庚申待現當二世悉地成就処</p> <p>萬治三天庚子十月吉日</p> <p>講人数十八一結諸衆</p> <p>白 敬</p>			
左面	正面	右面	
不聞猿像	不見猿像	不言猿像	
<p>与七郎 勘十郎 甚四郎 又口郎 三良右工門 新十郎</p>	<p>惣七 半左工門 六左工門 彦次 吉兵衛 庄十良</p>	<p>市左工門 四良右工門 佐五良 惣十郎 惣九郎 新藏</p>	

高本の万治三年銘笠付角柱庚申塔

光背型の輪郭内下部に三面に三猿を一匹ずつ浮き彫りし、その上部には、建立年月日と願文、建立主体の銘が、また猿の下には十八名の人名が刻まれています。

銘文

萬治三天庚子十月吉日
為庚申待現當二世悉地成就処
講人数十八一結諸衆

敬白



最古の庚申供養板碑

中世の初出は、「奉申待供養結衆」銘が刻まれた川口市実相寺の文明3年（1471）銘の板碑とされています。



左写真は、川口市HPより



右拓本は『図説庚申塔』 縣敏夫より

北総最古の庚申塔



北総では、香取市貝塚来迎寺個人墓地内に、「天正二二年」(4年1576)「當村善女」により「奉守庚申」三カ年供養のために建立されたとの銘が刻まれた宝篋印塔があります。



基礎部正面銘文の拓本

(基礎正面)

夫^カ奉^造建石塔志趣者
當村善女等逮十余
人相[□]二世安樂資

《座蓮》

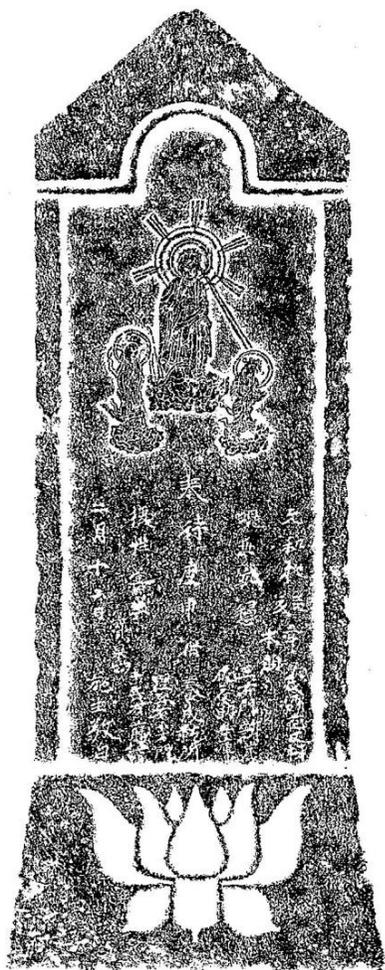
糧奉守庚申事三ヶ
年焉^カ其供養所營
如斯

施主等

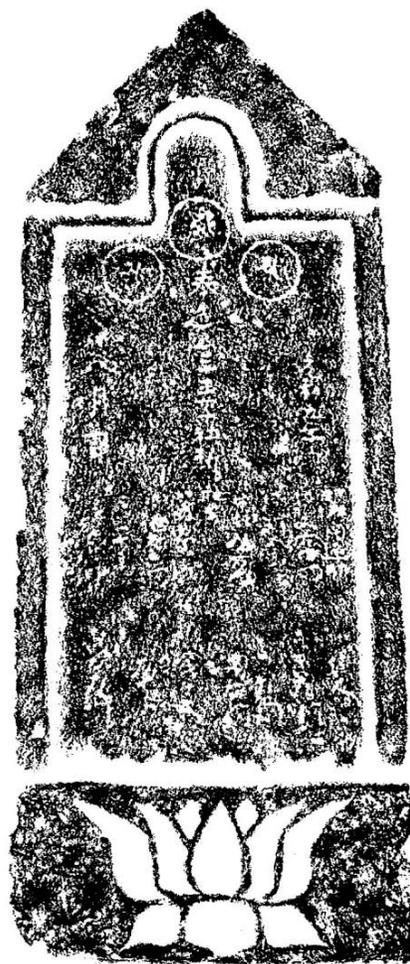
天正二天^西□今日

敬白

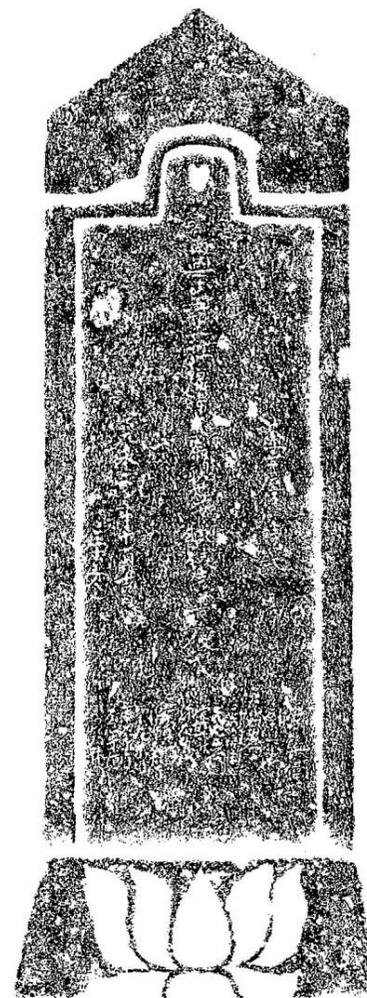
近世庚申塔の関東での初出



元和9年（1623）足立区正覚院
弥陀三尊来迎像
「奉待庚申供養成就所」銘



元和9年（1623）三郷市常楽寺
山王廿一社文字塔



寛永2年（1625）松戸市幸谷観音
山王廿一社文字塔
銘は「奉南無山王廿一社庚申」

近隣の江戸時代初期の庚申塔



慶安3年(1650) 佐倉市先崎 地蔵菩薩坐像塔
「奉造立庚申人数廿五人／先崎村／
本願友野河内／慶安三天／庚寅／二月廿四日」



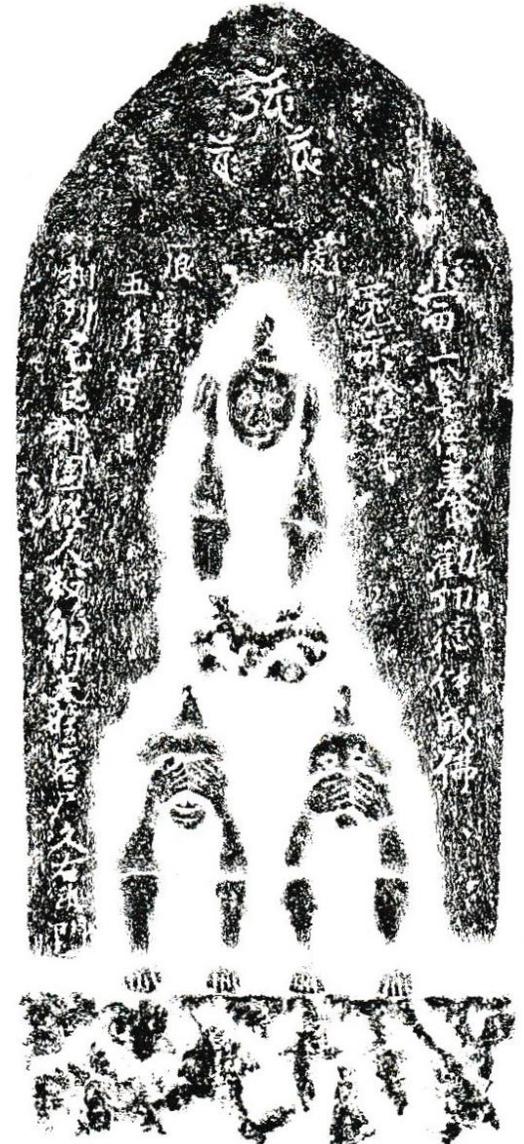
万治2年(1659) 板碑型庚申塔
我孫子市手賀高野山香取神社
「奉造立庚申講衆二世安樂所」 銘

関東の江戸時代初期の二猿・三猿塔



寛永16年（1639）
北区宝幢院
銘「山王廿一社」
阿弥陀像を拝む二猿像浮彫
同じ図像の寛永5年銘懸仏に
「為庚申供養奉待」銘がある
ことから「庚申塔」とみなされる

寛永17年（1640）
茅ヶ崎市輪光寺
「當六与供養勤功德伴成佛」
（「六たび供養を与して」＝
年六回の庚申待を指す）
三猿を本尊とする最古の庚申
塔（表2②）。



北総の江戸時代初期の三猿付き庚申塔



正保3年（1646）浦安市大蓮寺



慶安3年（1650）松戸市古ヶ崎 圓勝寺
台石に三猿像 「奉造立庚申供養二世安楽所」 銘

関東の江戸時代初期の三猿付き庚申塔



承応2年(1653) 富津市竹岡 松翁院



承応2年(1653) 藤沢市伊勢山公園



万治2年(1659) 我孫子市青山八幡神社

三猿三面彫庚申塔の近隣地域への広がり-1

三面各面に一猿ずつ配し、願文を刻した笠付角柱の庚申塔の類似型は、八千代市内・佐倉市・印西市・白井市など近隣にも広がっていきます。



寛文3年(1663)
佐倉市新町嶺南寺
(笠を喪失)



寛文7年(1667)
印西市浦部原新田



延宝元年(1673)
八千代市 萱田飯綱神社下
(左右面に男女別に人名列記
市内で2番目に古い庚申塔)

三猿三面彫庚申塔の近隣地域への広がり-2



延宝3年(1675)
白井市富ヶ谷薬師堂



延宝5年(1677)
佐倉市 臼井田お猿の松(水田内)



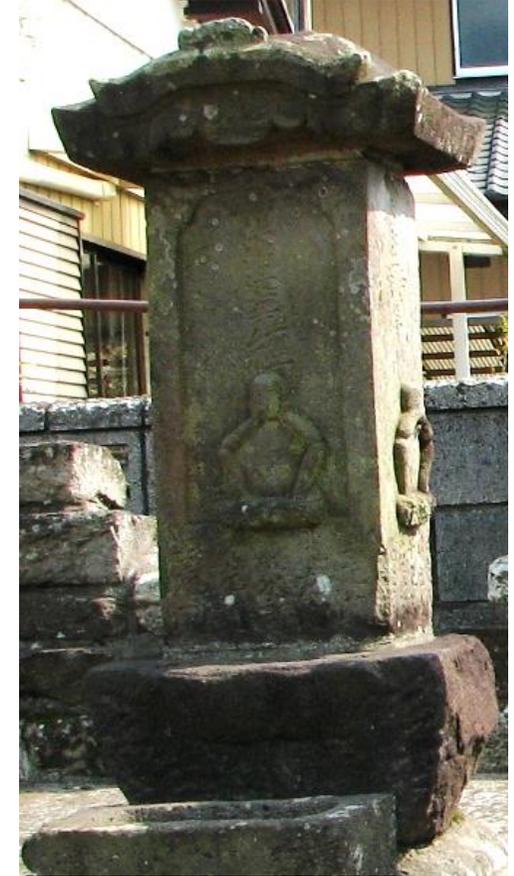
天和2年(1682)
白井市上長殿庚申塚

三猿三面彫庚申塔の近隣地域への広がり-3

天和2年（1682）八千代市内の平戸と島田の日蓮宗系題目庚申塔にも、この形態が継承されています。



天和2年(1682)島田字通原



天和2年(1682)平戸字道地

三猿三面彫庚申塔の近隣地域への広がり-4



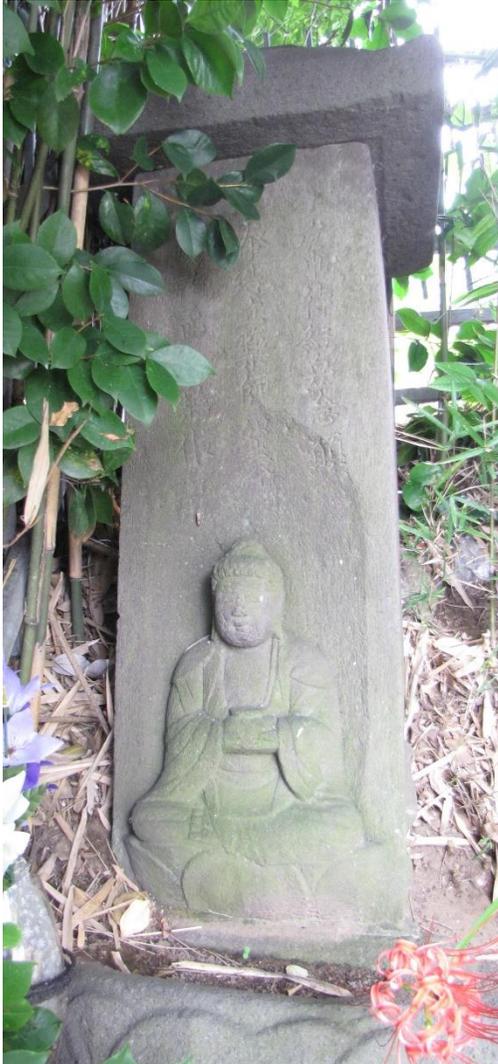
保品庚申塚の年不明庚申塔

八千代市保品で2019年調査した際に見つかった角柱型庚申塔の下部残欠には、左右正面に各一猿が浮彫りされ、「諸願成就二世安楽攸／[] 月吉日／星名村郷願主廿六人敬白」と二十数名の人名が列記されています。

中世に使われた郷名「星名」の字は、慶長7年（1602）の清宮家文書で確認できますが、石造物では、年銘のある享保11年（1726）銘の庚申塔以降すべて「保品」となっています。

この庚申塔は、他の三猿庚申塔事例と比較すると17世紀後葉の延宝期ごろの庚申塔と推測され、保品では最古といえます。

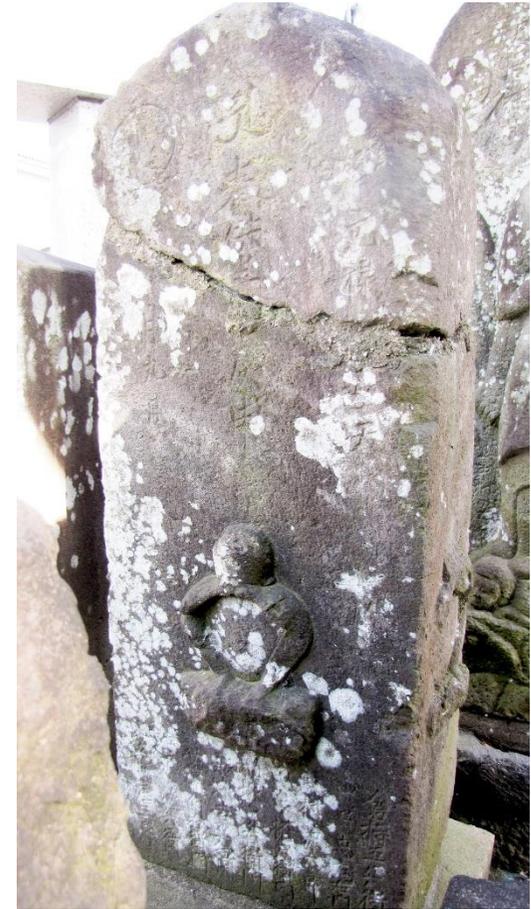
三猿三面彫庚申塔の近隣地域への広がり-5



寛文10年（1670）
船橋市西船五丁目路傍
主尊 薬師如来像
左右裏面下部に三猿



延宝8年（1680）
芝山町山中 宝樹寺跡
主尊 青面金剛
左右裏面下部に三猿



野田市関宿台町光岳寺
駒型の三面に三猿が彫られている
銘「奉供養庚申／元禄[]巳天口月」
元禄2年（1689）か14年（1701）と推定

関東地域の三猿三面彫庚申塔-1



寛文3年（1666）
横浜市中田御霊神社



寛文8年（1668）
江東区亀戸普門院

北総では、万治3年の八千代市高本の笠付角柱塔に続いて、寛文3年の佐倉市新町角柱塔をはじめ、野田市の元禄期の駒型塔までの約40年間に13基の三猿三面彫塔が確認できましたが、18世紀以降は見られなくなります。

この三猿三面彫庚申塔の淵源を知るために、東京都・埼玉県・神奈川県 of 庚申塔のデータを、主にWebサイトで探してみました。

Webサイトでは HP「神奈川県の庚申塔」が膨大な悉皆調査データを画像付きでアップしており、その情報から神奈川県域では335基の三猿三面彫塔がありましたが、いずれも寛文期以降で、万治期に遡る事例はありませんでした。

関東地域の三猿三面彫庚申塔-2



寛文元年（1661）
横浜市鶴見区渋沢稲荷



寛文4年（1664）
厚木市戸田八幡神社



寛文4年（1664）
平塚市大神寄木神社

関東地域の三猿三面彫庚申塔-3



寛文9年（1669）
藤沢市常光寺



延宝4年（1676）
豊島区高田2金乗院



延宝5年（1677）
小田原市飯泉村



延宝8年（1680）
鎌倉市笛田中志房

関東地域の三猿三面彫庚申塔-4



延宝8 (1680)
台東区下谷小野照神社



元禄2年 (1689)
茅ヶ崎市大六天神社



元禄5年 (1691)
小田原市久野大畑観音堂



元禄16年 (1703)
文京区本駒込天祖神社

八千代市内の江戸前期庚申塔



延宝2年(1674) 神野旧薬師堂 地蔵菩薩坐像塔
八千代市内で3番目に古い
「奉新造立庚申待為供養石仏地蔵一体二世安楽所」



延宝2年(1674)八千代消防署前
市内最古の青面金剛像塔
「奉勸請庚申像当村善男子善女人功
徳現世安穩乃至衆生安養□□」



延宝6年(1678)
吉橋 尾崎 大師堂
「奉造立庚申供養所願成就処 敬白」

隣接市の江戸前期の猿像付庚申塔-1 船橋市



寛文4年（1664）鈴見町墓地
船橋市最古の庚申塔



延宝4年（1676）
船橋市大神保町路傍
釈迦如来像（日蓮宗系）



延宝7年（1679）
船橋市古作町明王院
三猿板碑型

隣接市の江戸前期の猿像付庚申塔-2 佐倉市



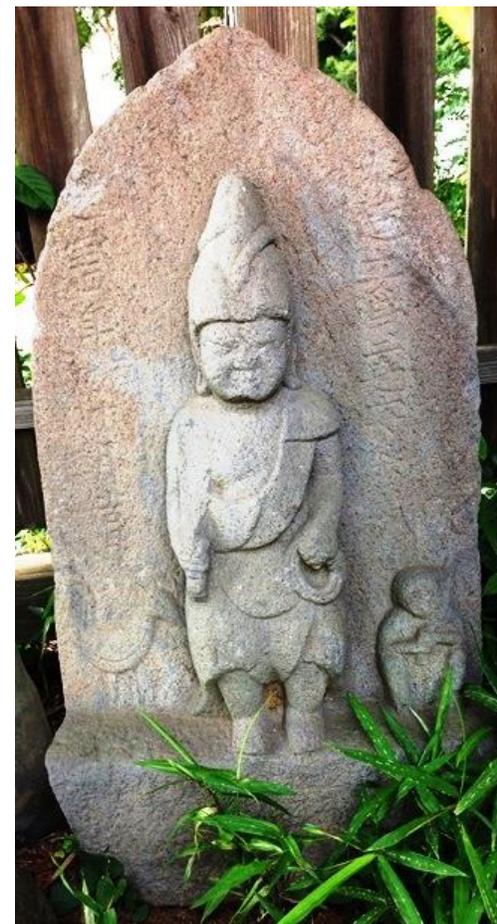
寛文10年（1670）
佐倉市海隣寺町愛宕神社
三猿駒型型



延宝3年（1675）
佐倉市上座
S家一猿板碑型



延宝3年（1675）
佐倉市海隣寺町愛宕神社
六臂青面金剛と二猿



延宝4年（1676）
佐倉市下志津原路傍
二手青面金剛と一猿・鶏

隣接市の江戸前期の猿像付庚申塔-3 印西市



寛文元年（1661） 印西市最古
印西市竹袋観音堂
聖観音像庚申塔 蓮台に三猿像



寛文2年（1662）
印西市中根山林内



寛文11年（1671）
印西市砂田庚申堂内
二手青面金剛像と三猿

隣接市の江戸前期の猿像付庚申塔-4 白井市



寛文10年（1670）
白井市最古
白井市谷田庚申塚



寛文10年（1670）
白井市最古
白井市鷲神社

三猿三面彫庚申塔のルーツは伊勢市の中世石塔か！

三猿庚申塔

ページ番号1009607 更新日 令和2年6月15日

印刷 大きな文字で印刷

さんえんこうしんとう

指定区分	市
指定種別	有形文化財（工艺品）
指定登録	平成19年7月31日
所在地	伊勢市辻久留3丁目
管理者	個人

概要

塔身は角柱で、三面に「庚申年」、「永享十二」（1440）の刻銘と半肉彫りによる三猿が彫刻されています。「永享十二」は干支の庚申年にあたります。
本塔はもと倭町の経ヶ峰東麓に所在していたことが知られています。

参考文献：『伊勢市史』第7巻 文化財編

「三猿庚申塔」をGoogle検索した際に左記の「伊勢市公式ホームページ」の指定文化財で左の記事がヒットしてきます。

今回の石仏談話室での報告が決まってから、嘉津山清先生から、この伊勢市の三猿庚申塔についての情報をお送りいただきました。

伊勢市の有形文化財になっているこの「永享12年」銘の「三猿庚申塔」は、形態的にもまさに高本の庚申塔のルーツといえそうです。

220年の時間差と、伊勢-下総間の距離。果たしてどのように伝わったのか、より謎が深まりました。

=伊勢市の公式ホームページから=

三猿庚申塔 概要

塔身は角柱で、三面に「庚申年」、「永享十二」（1440）の刻銘と半肉彫りによる三猿が彫刻されています。「永享十二」は干支の庚申年にあたります。

本塔はもと倭町の経ヶ峰東麓に所在していたことが知られています。

参考文献：『伊勢市史』第7巻 文化財編

おわりに

高本八幡社の三猿三面彫庚申塔の淵源を求めて、関東の近世初頭の庚申塔を調べてみましたが、万治3年以前の同型塔にたどり着くことはできませんでした。

各地の村や町で、庶民による石塔が建てられ始めた17世紀後半のこの時代、板碑型三猿塔、板碑型文字塔、如来菩薩像塔など多彩な庚申塔が数多く建てられました。三猿三面彫の笠付角柱型庚申塔もその一つの型式で、他の型式に比べて数は少ないですが、万治3年の高本八幡社の塔からの北総での分布の広がり確認することができました。

高本八幡社の周囲の環境は昨今の都市開発で大きく変貌しています。高本地区の旧家によって大切に守られてきたこの庚申塔の文化財としての重要性を、これからも市民向け史跡見学会などでお知らせして、守っていきたいと思っています。

今後とも三猿三面彫庚申塔の事例など、ご教授いただければ幸いです。

ご清聴ありがとうございました

